

## 令和4年度横須賀三浦地域首長懇談会の概要

開催日時 令和4年8月25日（木）15時30分から17時30分

開催場所 葉山町保育園・教育総合センター 2階会議室

### 出席者

市 町	県
横須賀市副市長 上条 浩	知 事 黒岩 祐治
鎌倉市長 松尾 崇	理事（いのち・未来戦略担当） 脇 雅昭
逗子市長 桐ヶ谷 覚	政策局長 平田 良徳
三浦市長 吉田 英男	県土整備局長 大島 伸生
葉山町長 山梨 崇仁	教育局長 田代 文彦
	横須賀三浦地域県政総合センター所長 井上 和子

## 概 要

### 1 開会

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ただいまから、令和4年度横須賀三浦地域首長懇談会を開催いたします。私は、本日の進行を務めさせていただきます。横須賀三浦地域県政総合センター所長の井上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の県側の出席者ですが、お手元に配付しました出席者名簿のとおりでございますので、紹介は省略させていただきます。また、本日の会議は、記者の方の取材は自由となっておりますが、現在のところ見えていないということです。

本日の進行ですが、次第のとおり、まず各市町の話題・課題等を議事として、次に「三浦半島×SDGs—持続可能な地域に向けた新しい活力の生み出し方—」をテーマに自由な意見交換をさせていただきますと思います。本日の懇談会は17時30分までと限られた時間でございますが、皆様どうぞよろしくお願いいたします

それでは、最初に黒岩知事からごあいさつ申し上げます。

### 2 知事あいさつ

みなさん大変お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、開催にあたり、会場をご用意いただいた葉山町の山梨町長さん、どうもありがとうございます。地域単位で行っておりますこの首長懇談会は、地域の課題について私と首長の皆様で意見交換をする場であります。限られた時間ではありますが、地域の実情を踏まえた率直なご意見をいただきたいと思っております。

意見交換に先立ちまして、何点か申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症について、保健師の派遣など多大なるご協力をいただき、深く感謝申し上げます。第7波ともいわれる感染拡大が続く中、本県では、国が新たに創設しました、オミクロン株「BA.5対策強化地域」の指定を受け、総力を挙げた取組を行うため、8月2日に「かながわBA.5対策強化宣言」を行い、県民・事業者の皆さんに、基本的感染防止対策の徹底と、「自主療養／届出制度」の活用をお願いしているところであります。また、関係団体と連携し、医療提供体制を可能な限り強化するとともに、医療機関や薬局、行政機関において抗原検査キットを配布するなど、限られた医療

資源を重症化リスクの高い方に重点化できるよう、全力を尽くしているところです。引き続き、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

次に、「神奈川県版脱炭素モデル地域」についてです。県では、今年度、脱炭素化に向けた対策を総合的に検討し、戦略の取りまとめを進めております。この戦略の一環で、地域の脱炭素化を図るためのモデル地域を「三浦半島地域圏」に設定し、調査事業を開始します。今年度は「再エネ利用促進」、「地域活性化」、「防災対策」の3つの観点を中心として、地域の脱炭素化と同時に、地域課題の解決や地域活性化に資する取組について、市町の皆様とも連携し、概ね年内を目途に整理していきたいと考えています。

さて、今年は、「ねりんピックかながわ2022」が本県で開催されます。皆様のご協力をいただきながら、着々と準備を進めているところです。11月の開催に向け、オリジナルソングやPR動画で県全体を盛り上げ、全国から来県する約1万人の選手・役員の皆さんをしっかりとおもてなしをしたいと思っております。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、地域の課題について、率直に意見交換し、有意義な時間としたいと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

### 3 葉山町（開催地）山梨町長あいさつ

改めて皆様こんにちは。ようこそ葉山町へお越しくださいました。こうして首長懇談会を、今年は久しぶりに対面で開催できますことを、どうしても目と耳で、二次元でお話するのは、なかなか慣れないものでして、皆様とこうして温度ある中で開催できることが本当にうれしくてなりません。

葉山町は今夏の海水浴のシーズンではあるのですが、今年は人出が弱くて、暑すぎるのではないのかとか、都心のナイトプールに客を取られているのじゃないかとか色々な議論がありますけれど、比較的穏やかに過ごせております。

また、コロナに関しては、私の見解ではありますが、黒岩知事を筆頭に神奈川県の皆様の努力に本当に感謝をしながら肌で感じております。そして、コロナの出口戦略に係っていると思います、これからどう平常に戻していくのかということについては、黒岩さんの発信力にすごく期待しておりますので、我々も地域からしっかり応援をしていきたいなと思っております。

これから秋季、台風シーズンでピリピリする時期が始まりますけれども、10月16日にはビッグレスキューかながわを葉山町でやる予定でございます。ぜひ成功に向けて皆さんの力をお借りしたいですし、今日ここにお越しの自治体の皆様もぜひ、小さな町の中でどのように防災対策していくかということで、かなり思案しているところもありますので、ぜひお時間あればお越しいただいて参考にご覧いただけたらありがたいなと思っております。

今日は短い時間ですが、有意義な時間となることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 4 話題・課題（要望）

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

山梨町長どうもありがとうございました。

続いて、「各市町の話題・課題等」ですが、進め方について、簡単に説明させていただきます。

まず、建制順に県への要望等をいただいた後に、県からまとめてコメントさせていただく方法で進めさせていただきたいと思っております。

大変恐縮でございますが、ご発言は5分程度でお願いいたします。また、プロジェクターを使ってご説明されますが、お手元にも資料を用意しておりますので、見づらい場合にはそちらをご覧くださいければと思います。

それでは、横須賀市の上条副市長から、よろしくお願いいたします。

**【横須賀市副市長】**

こんにちは。横須賀市の副市長の上条と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本来であれば上地市長が来るところなのですが、月曜日から本会議で一般質問をやっているところで、大変申し訳ございません、代理で出席させていただきます。また、今回コロナの関係で全数調査を実施しなければならぬものがなくなってくるということについて、保健所をはじめ医療関係者、市の職員を含めて、医療に集中できると大変喜んでおります。先頭に立って様々なことにご活動していただいた黒岩知事に感謝申し上げます、ありがとうございます。では横須賀市から2点ですが要望を出させていただきます。

まず小児医療費制度の充実ということです。1点目は、医療は生活に密接なものであり住む場所でのサービスに格差が生じないように、国の制度で本来実施していただくものであると思っています。県にはぜひ国への働きかけをお願いしたいというところです。やはりナショナルミニマムという観点で少子化を改善させていくためには、国全体が同じ制度同じ方向を向いていく必要があると思っています。ですので、住む町によって医療費の制度の格差があるということは、日本にとってよくないのではないかと考えております。2点目は通院に係る医療費について、県内のほとんどの市町村が中学3年までを助成対象としていますが、県から市への補助は対象年齢が小学校就学前までと大きな隔たりがあります。医療費の助成を自治体が独自に実施することで、助成対象者の格差や財源の格差が生じていることから、県の補助対象基準拡充についてご検討いただけたらと思います。本来であれば国がやるべきところではありますが、それを少し縮めるために県でも少し考えていただくことはできないかということで1点目あげさせていただきました。

続いて、防犯カメラの設置に対する補助制度の充実についてです。カメラの新規設置要望は増加傾向にあります。県から補助額が段階的に縮小されていく、またその制度によって設置されたカメラの更新も今後増えていくと思っています。防犯カメラの導入を促すためのきっかけとしての補助だという趣旨は理解できるのですが、短期間での事業の終息というのは設置済み団体と未設置団体との間で不公平感を生むのではないかと考えています。地域住民のニーズに答えるため、カメラの補助制度を市は継続していきますので、県にも市と同程度の補助継続や、機器の更新費用に係る新たな補助制度の構築をお願いできないものかと考えております。以上2点、要望としてあげさせていただきました。ありがとうございました。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

ありがとうございました。続きまして松尾鎌倉市長、よろしくお願いいたします。

**【鎌倉市長】**

はい。ではよろしくお願いいたします。鎌倉市から教員不足の解消についてということで、二つの方策の提案をさせていただきたいと思っております。様々な教員不足ということが日本の問題として取り上げられているところでございます。様々な工夫をしていただいていることは承知しておりますけれども、鎌倉市の教育現場から見まして、この点もう一工夫あるといいのではないかとという視点での提案になります。

ご案内のとおりですけれども、（教員採用試験の競争率が）13.3倍だったのが3.8倍になっている状況で、教員は神奈川県での任命権者であります教員ということをお願いしております。年度当初では必要な学校に必要な人員を配置できるということがありますが、諸事情これは人不足ということですが、フルタイム配置できず非常勤講師を配置している学校もあるという状況がございます。教員不足の解消に向けて鎌倉市としてやっておりますのが、様々な機関との連携ですとか、OBの人材、70歳を超

えるようなOBの方も協力いただいていることもあります。そしてここで二つの提案をさせていただきます。

ボーダー臨任制度の廃止をしていただきたいというのが一つ目のご提案になります。釈迦に説法のような話になりますが、ボーダー臨任制度なのですが、小学校1年から3年では35人で1学級、4年から6年は1学級40人という状況があるのですけれど、新年度の児童数が、例えば小学校4年生は120人だったら3学級、121人だったら4学級と、1人増えたら4学級と教員が3人から4人へと1人増える形になるということです。そのときにボーダー臨任制度が関わってくるのですけれども、前年度の1月4日時点の児童の人数で必要教員の見込み数を算出しているということがあります。その時にプラス3人以内、120人だった場合には121人とか122人だったら辞退がでて教員が1人減るという場合には、正規職員ではなくてボーダー臨任を配置することになっています。小さい問題ではありますが、ボーダー臨任が、「ではお願いします」となったときに任用日が4月1日でなく4月8日になると交通費が全く支給されないという不利益が生じるということがあるのと、ボーダー臨任と伝えるとより雇用条件のいい他の市町になってしまうというようなこともあります。

そもそもボーダー臨任ということが問題としてあるのではないかと。ボーダー臨任でなければ、仮に1人減ったという場合でも、年度途中には産休育休等の代替教職員の確保が必要になってきますのでそういうところにも活用できる、安定的に学校運営ができるということにつながっていくと思います。全国的なところですが、例えば東京都ではボーダー臨任といった制度は取っていません。神奈川県の中では8.5%が全体の中でのボーダー臨任の割合という形になります。

もう一つの問題です。児童支援専任教諭後補充非常勤講師の県費負担での配置についてというお願いになりますけれども、鎌倉市は今年度から、児童支援専任教諭がコーディネーターの役割に選任できるように予算を計上しました。これまではクラスを持ちながら専任教諭を兼任しておりますので、なかなかコーディネーターの役割に専念できないという現状がありました。現在こうした形で、専任で担当していただいていることで、学校の中での生徒の落ち着きですとか、教職員の安定した仕事につながっているという成果がでています。学校運営上必要不可欠な配置だというように考えますので、是非県費での配置をお願いしたいところでございます。

最後になりましたが、いま、できることということで、教員不足の根本的な構造的要因に対して基礎自治体のみで解決していくのは難しいわけなのですが、できることを効果的に実施していく、それも子供たちは成長を待ってくれませんから、一刻も早く手を打っていきたいと考えています。私からは以上です。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして桐ケ谷逗子市長、よろしく願いいたします。

#### 【逗子市長】

逗子市長の桐ケ谷でございます。よろしく願いいたします。逗子市からは要望といいますよりもカーボンニュートラルについての取組をしているというところをご紹介させていただきたいと思っております。

既に多くの自治体が宣言されているところでありますけれども、逗子市も今年1月31日「チャレンジ! 逗子カーボンニュートラル2050」として宣言を表明したところであります。取組としましては、20年ほど前からになりますけれども、市民、各種団体と協力して「環境フェスティバル」を実施してまいりました。しかしこれも高齢化とイベントの内容自体も段々マンネリ化するという事で集客力も落ちてきたところであります。今年のイベントに関しましては、比較的若手の参加者が実行委員長を買って出たりしまして、イベントの名称も変え、「ずしグリーンライフフェス」ということにしまして、環

境のみならず、教育、福祉の関係者も巻き込んでイベントを行い、これも一定の成果が見られました。内容はこういったイベントです。子供たちも小学生も会場に来ていました。グリコンというイベントで、ブレストで色々意見を言い合うところに参加しましたら、高校生ですとか大学生ですとか、本当に若い人達に集まっていただいて、様々な意見交換をすることができて大変有意義な時間でありました。こういう会場の状況です。

現状を申しますと、逗子市の温室効果ガスの排出量としましては2013年に236千t CO<sub>2</sub>でしたが、これを2030年、そして2038年、27%削減しなくてはならないという目標でありますので、2050年に実質0に向かうということになると相当ペースをあげていかなければいけないということになります。

この、2050カーボンニュートラル宣言をした時、ちょっとのんきに構えておりました、2050年はもう生きていないしと。自分自身は101歳になっていますので、もう生きていないとこう思いながらやっていたのですが、逗子在住の社長さんと色々お話ししているときに、「いや、桐ヶ谷さん、今の小学生は22世紀を生きる子供ですよ。」と言われました。確かに今10歳としてあと78年となりますと90歳前に22世紀到来。いやいやこれでこの暑さ、色々な環境が劣化している中で、この子供たちの生きていく地球はどうなるのだろうか本当に考えさせられました。これは本当に今を生きる者として、この22世紀を生きる子供たちに、ちゃんとした地球を届けなきゃいけないという思いにさせられました。今回のイベントには、大学生、高校生、中学生、中には小学生も参加していましたが、これはやっぱりスウェーデンのグレタさんの影響が大きいのだと思いますけれども、自分たちの問題だと、この訴えが若い人達に本当に伝わってきているのだなと思います。

逗子市は工場があるまちではないものですから、今からやろうとしていますのは、例えば商工会を通じて事業者にはCO<sub>2</sub>の見える化をまずは訴えていこうと思っています。併せて、子供たちの教育の一環として、各家庭でどのようなCO<sub>2</sub>を出しているのか、この見える化を調査する、そのあたりから始めたいと考えております。事業者向けそして市民向けにCO<sub>2</sub>の削減をどういような過程から実現できるのかということの一つ一つとらえていく、そんな運動に展開していきたいと考えているところで

逗子市の宣言では、「一人ひとりがこの地球の未来を想い、数百年後の子どもたちが今と同じように笑顔で過ごせる、そんなまちづくりを共にしていきましょう」という文章で結んでおります。正にこれを実践すべく、来年度からは具体的な活動に入っていきたいと考えているところであります。ありがとうございました。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして三浦市の吉田市長、よろしく願いいたします。

#### 【三浦市長】

三浦の吉田でございます。私からは三浦の個別の事情で大変申し訳ないのですが、2点をお話させていただきます。

まず、水道事業でございます。三浦市の水道事業は自己水源がございませんで、横須賀市さんをはじめ神奈川県、横浜市、川崎市のご協力をいただいて、神奈川県内広域水道企業団の水を確保し全量を受水に頼っております。この広域連携によるメリットは働いておりますが、令和6年4月1日に料金改定をすると、全国平均を上回りまして県内で一番高い料金になる予定でございます。今後も人口減少に伴う料金収入の減少や施設の更新需要の増大、職員の技術継承など、必要な資金、人員確保が困難な状況となります。事業継続は大変厳しくなるものと考えております。神奈川県には、平成18年度から県営水道との連携について検討していただいておりました、平成30年5月からの検討会では三浦市営水道の課題解決に向けた様々な検討をしていただいており、ご指導によりまして、三浦市水道事業のビジ

ョンが完成いたしましたして、大変感謝申し上げたいと思います。

本ビジョンに示します経営戦略に基づきまして、水道事業の健全化を図るために、値上げの措置をさせていただきます。今後は広域連携の調整、水道広域化推進プランの策定など、県内の全事業者が参画する神奈川県水道事業広域連携調整会議を、県主体で設置をしていただいておりますので、経営改善に向けた取り組み、併せて県営水道への具体的な統合について県が策定する広域化プランに位置付けをしていくことを、お願いをしたいということでございます。

次に、幹線道路についてでございます。三浦縦貫道路の整備が進んでおります。今、三浦縦貫道路の先、Ⅱ期区間4.4キロのうち1.9キロ三浦市内まで延長がされておまして、未整備区間が残り2.5キロとなっております。道路と直結する都市計画道路の西海岸線についても諸々検討していただいております。道路は血管ですね。血が通って初めて健康な体が保てると思っていますので、県内様々な道路計画がございますが、三浦半島の先端として、大きな産業もございますので、ぜひこれからも併せて一緒に検討していただきたいということでございます。この地図でございます、左側の太い所がありますね、そこがこれからの計画路線なのですが、非常に重要な位置付けとして、官民一体となってお願いをさせていただきますので、引き続きよろしく申し上げたいということでございます。私からは以上です。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして葉山町の山梨町長、よろしく願いいたします。

#### 【葉山町長】

よろしく願いいたします。資料に入る前に、当町、湘南国際村の国際村センターをコロナの療養所として構えておりますけれども、改めましてこの間、神奈川モデルの元で、阿南先生のご活躍もテレビなどで拝見しておりましたが、救急車が止まることもほぼなく、この2年半の間、過ごすことができしております。本当に神奈川の良い医療体制のある中にいられてよかったと思うことが多くあるので、今日は知事もいらっしゃいますので、県の皆様に本当にお疲れ様とお伝えください。

それでは、資料に入らせていただきます。葉山町も町内の話になりますが、これまでの継続事業についての報告を皆さんに今日はお伝えしたくてお持ちしました。初めに、三浦半島中央道北側区間でございます。地図で言いますと、逗子インターを出て逗葉新道の出口から鎌倉方面に向かう県道311号線と逗子市さんの池子の桜山地域、米軍住宅に抜けるところにトンネルを開通させようということで、長らく議論をしまいましたが、このコロナ禍にありましても、県の皆様と連携しながら様々な事業を進めてまいることができております。現状では令和3年度に地質調査まで入りました。一緒にオープンハウスの地元への説明会も行いまして、いよいよ実施設計に入っていくと聞いております。その間、大島局長にもお会いして「不転で臨みます。」というお言葉をいただけ大変心強く、我々は逗子市長桐ヶ谷さんと参りましたけれど、地域で出来ることはしっかりやった上で、県の方の推進を我々はサポートしていきたいと思っておりますので、どうか引き続き事業実施のほど、よろしく願いいたします。

続きまして、細かい話になりますが、こういった要望の活動の際に、道路の路側帯を走るときに、どうしても排水溝がガタついたり、排水溝のマス目が大きいことで、自転車のロードバイクのタイヤが挟まってしまって大きな事故があったということも聞いておりますので、この目を細かくしてなるべく整備を進めていただきたいということをお願いをいたしました。無数に数はあるのですが、着々と進めていただいております。要望をいっぺんにとはいかないと思うのですが、きれいになることで大変走りやすい道路になっていることを改めて申し上げたいと思いました。

続きまして、当町は駅がないために、タクシーやバスといった公共交通がメインの町になります。こ

ちらの写真は御用邸から200メートルほど上がった葉山の旧役場のあったところなのですが、町の所有地を県の方で買っていただきまして、バスが本線から外れて止まるバスベイを設置してもらった事例があります。平成29年の2月に1,500万円でこの町の土地を買っていただきまして、そのお金で今年の3月にバス停上屋、写真のような立派な、京急バスさんに言わせると管内で一番立派じゃないかというバス停上屋を作りました。最初、2,500万円使って杉の木で作ろうと思ったのですが、ウッドショックでヒノキの方が安いという逆転現象が起きていまして、総ヒノキ造りになっております。ぜひ皆様ご承知おきください。同じようにバスベイの設置を県の皆様をお願いしながら随時進めてまいりました。これは、小学校の通学路にメインのところがあります向原バス停もお願いをしまして、今年の3月にこのようにきれいにバスが寄る所ができました。このように進めていただいているところで、最後になりますけれども本年度、上り線の風早橋バス停、おそらく乗降客数が一番多いのではないかと思うバス停なのですけれど、このバス停は非常に狭く中学生も通学路で使っているところで、雨が降ってしまって傘をさしてしまうと誰も歩道を歩けない状況が、かねてより積年の課題になっておりました。この場所が写真でご覧いただいている手前のタバコ屋さん跡地が空き地になりまして、バスベイの確保について交渉をまとめさせていただきまして、県の方でこちらの土地を購入していただいて、バスベイの設置を進めていただける話もいただいておりますので、おそらく町のバス停としては大きいところは最後になると思うのですが、快適な国道134号線の運行を目指してぜひ引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

最後になります。町は道路が狭いために道路標識また電柱についても、無電柱化を進めていただきたいと兼ねがね要望してまいりました。電柱は防災上のリスクもありますので、無電柱化に関してまずは県のみなさんと勉強会を進めさせていただこうということで、町がまとめた構想を基に、国道134号線を中心に災害時に問題のない道路にするためにも、現地視察をしながら勉強会を開始したところがございます。まずは町役場周辺からどうだろうというご提案をいただいておりますので、町としてまずはどんどん取り組んでいくことを大事にしていきたいと思っておりますから、引き続きご指導いただきながら電柱を1本でも2本でも抜けるようがんばっていきたく思います。町から現在進捗中ということで、これまで要望してきたことが着実にこのように形になっていることに対するお礼を込めて、引き続き共に歩む県であっていただきたいということを、心をこめてお伝えさせていただきました。以上でございます。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。それではただいまの皆様からのご説明に関しまして県からご説明させていただきますと思います。本日は出席者を限定したため、担当局長からの説明ではない場合がございますが、ご了承いただければと思います。まず、平田政策局長より発言をお願いいたします。

#### 【政策局長】

政策局長の平田でございます。いつも皆様にはお世話になっております。この場をお借りしてお礼申し上げます。今、司会の方からお話がありましたが、福祉子どもみらい局長とくらし安全防災局長は本日こちらに参れませんでしたので、私の方から併せてコメントさせていただければと思います。

まず横須賀市からいただきました、小児医療費制度の充実でございます。小児医療費助成事業補助金につきましては、子どもの健全育成と保護者の経済的負担軽減を図るために、実施主体である市町村に対して県が補助を行っております。小児医療費について、県としては、子育て世帯など、その家族の経済的負担の軽減に寄与するため、国の施策として統一的な医療費助成制度を創設すべきと考えておりました。令和4年度においても「令和5年度国の施策・制度・予算に関する提案」において、国に対し

て要望したところでございます。

また、小児医療費助成制度は、通院において、病気にかかりやすく病状が急変しやすいということで、医療費の負担が非常に重い小学校入学前までの子どもを補助対象としております。制度設計については、市町村の皆さんも参加する検討会で協議を行って定めたものということでございまして、補助対象年齢を引き上げることは考えておりません。

今後も、国の制度として小児医療費助成制度を創設するよう、引き続き国に対して働きかけてまいります。

次に、同じく横須賀市さんからいただきました防犯カメラの設置に対する補助制度でございます。平成28年度から令和元年度までの4年間の予定で開始された地域防犯力強化支援事業については、その高いニーズを踏まえ、令和2年度から3年間に限り事業を延長するとともに、事業終了に向け、令和2年度からは補助上限額を15万円、8万円、4万円と年々低減させる計画で事業を実施し、令和3年度までの6年間で計1,623台の防犯カメラの設置補助を実施してまいりました。

県では、これまでの設置実績や高いニーズを踏まえ、令和5年度以降も防犯カメラの設置に対する補助を継続して行うために、「市町村地域防災力強化事業費補助金」へのメニュー化を検討しておりまして、その補助内容を検討するにあたりまして、市町村の皆様からの意見照会を実施したところでございます。各市町村からは補助対象経費や補助上限、補助率などについての回答をいただきましたが、その他に横須賀市や他の市町から防犯カメラの設置費用が絶えないためにこれまでの補助制度の水準を踏まえた継続を希望する意見なども頂戴しています。今後は各市町村からいただいたご意見等を踏まえまして、新制度の補助内容を検討してまいります。

私からは、三浦市さんからいただきました三浦市の水道事業についてでございます。水道事業の統合につきましては、給水区域内に整備された水道管等の資産、また施設整備に係る負債の取扱いなど、難しい課題もありまして、それぞれの経営が健全であることが前提となると考えております。このため、統合の議論を進めるには、何よりもまず、経営の安定化を図ることございまして、三浦市水道事業におかれましては、三浦市水道ビジョンに基づき、令和4年7月から水道料金の値上げということでございまして、経営安定化に向けた三浦市の決意の表れというように受け止めさせていただいております。

そこで、県といたしましては、三浦市水道ビジョンの計画期間である10年間の市の水道事業の経営安定化に関する取組が着実に進められますよう、まずは、市の水道事業の経営安定化に関する取組に対しまして、市からの要請に応じた支援を実施していきたいと考えております。

また、三浦市水道事業と県営水道との統合につきましては、多様な広域連携を目指す「かながわ水道」実現の一環として、関係機関と共に研究を進めてまいります。

令和4年度に策定する神奈川県水道広域化推進プランにつきましては、県内全ての水道事業者にも関わることでございますので、神奈川県水道事業広域連携調整会議等を通じて、各水道事業者の意見を丁寧に聞きながら作成してまいります。

なお、直近の動きといたしましては、三浦半島の特殊性・地域性を踏まえた様々な連携方策を探るための、関係機関による意見交換会を開催させていただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。私からは以上でございます。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

続きまして、大島県土整備局長よろしくお願いたします。

**【県土整備局長】**

はい。県土整備局長、大島でございます。日頃より大変お世話になっており、誠にありがとうございます。

はじめに、三浦市長さんより県道の整備についてお話をいただきました、三浦縦貫道路と都市計画道路西海岸線でございます。三浦縦貫道路、ご提示いただいた最後のページの道路の図面は、非常にわかりやすい図面となっておりますが、三浦縦貫道路はこの赤い部分が未整備区間となっております、およそ2.5kmとなっております。青い部分が西海岸線、これも2.5kmほどとなっております。

三浦縦貫道路の残り2.5kmですが、一刻も早く整備をしたいということで、少し従来の構造、縦断線形を見直しています。例えば、橋の延長を短くすると早く整備が進みます。一刻も早くということで、昨年来から取り組んでおります。また、縦断線形を変えますと接続する市道が増えてきますので、そうした市道とどんな交差をさせるかということ、事務レベルで調整させていただいております。いずれにしても、一刻も早く整備が進むような調整を、これからも引き続きよろしくお願いいたします。

次に、西海岸線でございますが、この道路も調査を様々進めております。大規模な橋梁があり、これを進めるにあたりまして、大気や生物などの周辺の環境調査をまず進めています。そして、専門家のご意見を伺いながら、橋のタイプなどの検討を今進めているところでございます。今年度はこうした成果を元に、地域の方々や漁協関係者などに、検討してきた橋梁の計画を丁寧にご説明させていただき、ご理解を得て、それから詳細な橋梁の設計を進めていく、そうした手順を踏んでいきたいと思っております。

いずれにしても、三浦縦貫道路も西海岸線もどちらも三浦半島の骨格、それから三浦市の南北方向の貴重な骨格にもなりますので、どちらもしっかりと整備を進めていって、どちらから先ということではなく、できることから着々と進めていきたいと思っております。ご協力よろしくお願いしたいと思います。

それから、葉山町長さんから、道路環境について何点かお話をいただきました。まず、三浦半島中央道路の北側区間でございます。ここは兼ねてよりなかなか合意が得られない地区がございまして苦労しておりましたが、ようやく昨年、お話しがありましたようにオープンハウスを設けることができました。ここで再度、住民の方々のご意向を色々伺うことができました。そのなかでは、事業に賛成といった声もございましたし、やはり最近トンネルで全国的に様々なことがおきていますので、地盤沈下ですとか騒音・振動といったような生活環境に対するご懸念の声もございました。

こういったことを解決していく上では、やはり調査を進めて、その調査結果に基づいた説明を住民の方にしていく必要がございます。昨年度から地質調査を行って、今年度は、騒音・振動などを予測、評価するための調査を実施する予定としております。こうした調査を引き続き精力的に行い、事業に対する理解を高めていくなど、しっかりと進めていきたいと思っております。この道路は、横浜方面と結ぶ貴重な道路でもございますので、引き続きご協力をお願いいたします。

その他、バスベイ、集水桝等のお話もございました。集水桝は日常の維持管理の範疇でもありますので、ここにおります横須賀土木事務所長に申しただけければ、日常の対応で十分可能でございますので、よろしくお願いいたします。バスベイにつきましては、用地取得にあたりご協力いただき誠にありがとうございます。ご協力いただいたおかげで、写真にありますように非常に利用勝手がいいバスベイができました。ご協力に感謝申し上げる次第でございます。

それから、電線の地中化につきましては、葉山町さんの道路が非常に狭いということで、埋設するスペースがないというところが昔から課題になっておりましたが、最近の一番新しい技術で、少し共同溝を小型化するものもございます。例えば、それを道路下に入れることができないかという検討も進んでおりますので、そういった最新の全国的な検討状況も踏まえるなど、道路下でも入れるようなことが可能かどうか、そのような案も、葉山町さんの道路においては今後研究していきたいなと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。私からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

最後に、田代教育局長よろしくお願ひいたします。

#### 【教育局長】

はい、教育局長田代でございます。いつも教育行政の推進にお力をいただき、ありがとうございます。

鎌倉市長さんから教員不足の解消についてお話をいただきました。教員不足は極めて深刻な課題と受け止めております。県教育委員会といたしましても、教員志願者を増やすために大学生に向けた説明会ですとか、動画の配信ですとか、さらには教員免許を持ったまま教壇に立ったことがない、いわゆるペーパーティーチャーを対象とした研修講座を新たに実施するなど、様々な工夫をしている所でございます。今後も継続して様々な取組を進めて、教員の確保に努めてまいりたいと考えております。

そうしたなか今回、仮配当制度の廃止についてお話をいただいたところでございます。教職員定数は、お話いただいたとおり義務標準法という法律で規定されております。この法では、当該年度の5月1日時点の児童・生徒数によって算定した学級数に基づいて、教員の数が確定すると、こういう仕組みとなっております。お話しいただいた前年度の1月4日時点でもし確定いたしますと、もしその後、児童が転出等した場合に過員が生じてしまうということで、県独自に見直すのはなかなか難しいというところでございます。また、現状では正規職員の確保が厳しいといった実情もございまして、そこで、厳しい欠員状況を踏まえまして来年度令和5年4月に向けては、教員の採用数を大幅に増やしたところでございます。今、教員試験が大詰めのところでございます。

また、仮配当制度のあり方については、ご指摘いただいたとおり、ボーダー臨任といわれる方に不利益が生じることがないように、例えば任用日を4月1日とするなど、市町村のご意向を伺いながら、検討させていただきたいと考えております。

次に、児童支援専任教諭後補充非常勤講師の県費負担についてお話いただきました。この必要性は私どもも十分認識しておりますが、厳しい財政状況の下で県単独で全県配置というのはなかなか難しいのが現状でございます。専任の例えば教育相談コーディネーターを配置するための定数改善ですとか、児童生徒指導担当教員の配置拡充については、県教育委員会として、これまでも国に要望しており、今後も機会をとらえて強く働きかけてまいりたいと思っております。

教員不足は全国的な課題であり国においても議論がなされております。私どもとしては国の動きも注視しつつ、教員の働き方改革の推進なども通じて、教員が働きがいのある職場づくりにおいて市町村教育委員会さんと一体となって取組んでまいりたいと考えております。引き続きよろしくお願ひいたします。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。これまでの県の回答につきまして、市町の皆様から、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

## 5 意見交換

続きまして、「三浦半島×SDGs—持続可能な地域に向けた新しい活力の生み出し方—」をテーマにした意見交換に移りたいと思います。

まず、各市町さんからテーマに関するご発言をいただきます。恐縮ですが、建制順で、お一人5分程度ずつで、ご発言いただきたいと思います。それでは、横須賀市の上条副市長、よろしくお願ひいたします。

## 【横須賀市副市長】

よろしくお願いいたします。スライドが見にくいかもしれませんので、お手元の資料と並行しながら、よろしくお願いいたします。

横須賀市では「海洋都市」、「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市」、「個性ある地域コミュニティのある都市」の3つのグランドデザインを掲げてまちづくりを進めています。

このうち「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市」の実現に向けた主要な取組であるアーバンスポーツ、アートを活用した取組について、最近の取組をいくつかお話させていただきます。

1点目はBMXの取組です。7月22日から24日の3日間、平成町にあるうみかぜ公園という場所で「マイナビJapan Cup（ジャパンカップ）」を開催いたしました。このジャパンカップは横須賀市と一般社団法人全日本フリースタイルBMX連盟との連携協定により実現したもので、毎年全国2か所で開催されているハイレベルな全国大会で、全日本選手権の選考も兼ねています。東京オリンピックで正式種目になったフリースタイルパークでは、オリンピックにも出場した選手も参加しまして、大いに盛り上がりを見せました。約1万人の方にご来場いただき、大会で使用したパークといわれるジャンプ台はレガシーとして横須賀市に残し、中・上級者向けBMXパークとして常設してまいります。今後はBMXジャパンカップの継続開催や大会で使用したセクションの利用の拡大、BMXの体験会なども実施を検討しているところです。

続いてダンスを活かした取組です。ストリートダンスは先ほどのBMXとともにエンターテイメント性が高く、本市のイメージともマッチしていることから、普及・振興に向けた取組を始めています。今年度新たに2つのダンス大会を横須賀市へ誘致しました。

一つ目は日本最大級のダンス大会、「JAPAN DANCE DELIGHT（ジャパン・ダンス・ディライト）横須賀大会」で8月14日に横須賀芸術劇場で開催しました。平成6年より続く日本で最も伝統ある全国規模のストリートダンス大会で、東京、大阪、広島、仙台の全国4都市で開催されていた地区大会の5都市目として、新たに横須賀大会を新設したものです。全国から59チームが参加して熱いダンスを繰り上げていただきました。

二つ目は「高校生ストリートダンスグランプリ」です。新たに横須賀で立ち上げる高校生対象のダンスコンテストで、2日間の予選大会と決勝大会を横須賀で開催するものです。全国から約80校の参加を見込み、高校ダンス部の頂点を決める大会になります。今後この2つのダンス大会を継続的に横須賀で開催し、規模拡大と定着化を目指すとともに、誰でも利用できる屋外のダンス練習場所の設置や中学高校ダンス部への講師派遣など、子どもたちの活躍を応援していきたいと思っています。

続いてアートを活かした取組です。普段は入ることのできない夜間の猿島を舞台に、アートを楽しむ芸術祭、「Sense Island（センス・アイランド）」を開催します。参加者に携帯電話・カメラを封印していただき、暗闇と静寂の中で五感を研ぎ澄まし、島内で様々なアート作品をお楽しみいただきます。本イベントは令和元年、令和3年に続き今回で3回目の開催となります。この芸術祭は猿島とアートを融合させ、地域資源の新たな魅力を発信したイベントで、都内からが半数、県内他地域を含めた市外からの来訪が約8割以上、また若い世代の女性の割合が高く、これまでの本市への観光客とは異なる層の方々にお越しいただいております。改めて、横須賀の可能性を高く感じておりますし、外国人のインバウンドも含め更なる展開を期待しているところです。

最後に、ストリートキャンバスです。横須賀海岸通りのうち、平成町内にある古びたモニュメントをキャンバスとし、様々なアートで彩るプロジェクトです。本プロジェクトは令和2年から制作を開始し、直近では5月に第4弾として市内の福祉事業者の方々によるウォールアートが完成しました。今後の方向性として令和4年度中に9か所まで拡大、SNSを活用したキャンペーンやスタンプラリーの開催などを検討しています。

最後のスライドで、参考までに各イベントの開催場所を地図上に表記しております。ご参照ください

い。横須賀市ではこれまで以上に観光産業に力をいれていきます。横須賀は、軍港のイメージが強く、それを起点とした観光やペリーが来航した浦賀など、歴史を起点とした観光を中心に進めてきました。その客層はコアな歴史ファンの方などが中心で、それをどう広げていくかが課題となっていました。本日も説明したアーバンスポーツやアート、それ以外にもベイスターズ、マリノスなどのプロスポーツやサブカルチャー、eスポーツなどのエンターテインメントに地域資源を融合させ、他の地域にない魅力を生み出していき、これまでにない客層と新たな横須賀のイメージを打ち出したプロモーションを展開していきたいと考えています。横須賀からは以上です。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、鎌倉市の松尾市長よろしくお願ひいたします。

#### 【鎌倉市長】

はい、よろしくお願ひいたします。鎌倉市からは共生社会の実現に向けたキーワード「SDG s」ということとお話をさせていただきます。平成30年6月に神奈川県と同じ時期でしたけれどもSDG s 未来都市に選定をされたというところです。

SDG s つながりポイントです。こちらは最初神奈川県さんが予算をつけてつながりポイント鎌倉市と小田原市とで展開をさせていただきました。地域通貨は全国的に「さるぼぼポイント」ですとか北海道の「エゾカ」とか色々な地域通貨がありますけれども、貨幣通貨に変換できる1ポイント1円みたいにするのと、確かに広がりはず早く、そういう使われ方をすると会員数がどんどん伸びるのですが、鎌倉はあえてその道を取らないで進んでいます。というのも、人と人とのつながりを大事にしたいというところで、どうしても貨幣通貨に換金できるとなると、それ目的で使うということになってしまうので、なかなか気持ちが入らないということで、頑張っているのだということをお伝えしたいのですが、じわじわとやっている中で裾野が段々広がってきています。現在ユーザー数8,915人となっていますが、最新で9,100人くらいまで伸びているのですが、段々こうなると新しく市民の方が引っ越してきて、地元のお店とか今まで4回5回と行かないとなかなかお得意さんみたいになれなかったのですが、初めていったところでもこの「クルッポ」でつながることによって、すぐ仲良くなったりとか、お店のリニューアルのお手伝いをしてもらえますかという話でも、暇を持て余しているお手伝いしたい方が集まってきて「クルッポ」もらえとか、「クルッポ」もらえることが目的ではなくて、それを通じて色々な人のつながりが起きているということで、地味な取組にもなりますけれど、じわじわと良い効果が出ているというように感じています。

ポイントとしては、こうした「まちのもったいないマーケット」ということで、農家さんが売れなかった野菜をポイントでもらえたりですとか、ご住職がグチを聞くなんていうきっかけにもなっていたりします。

SDG s 推進隊、今小中学生たちがSDG s もっとやりたいという熱い想いをもってくれている子供たちに、そういう場を提供して一緒に取り組んでいるものです。FMヨコハマなどにも出演してくれて自分はこんなことをやっているというようなことを、堂々と発表してくれる子どもたちが増えているそんな状況です。

旧村上邸、これは古民家を活用して、開放しながら様々な地域の交流の場が生まれている場であったりします。

鎌倉市の公共施設ではエネルギー100%、再生可能エネルギーの電気を使用して、今年度全て切り替えるという形になっています。

「かながわプラごみゼロ宣言」の真似をさせていただいて、「かまくらプラごみゼロ宣言」ということでさせていただいたものです。これに合わせて市役所の中からペットボトルをなくすことですか、

神奈川県企業の取組ですけれども、鎌倉駅の西口の駅前にウォーターステーションを設置していただいたことで、この夏も大変暑い日が続きましたけれども、冷たいお水が無料で飲めるということで、大変皆さんに好評をいただいている取組の一つです。

リユース食器の補助は、お祭りはどうしてもたくさんのごみがでますが、こうした補助を使って、ごみの出ないイベント作りということを心掛けています。

「メグルー」は、まち中のレストランの皆さんが協力をしてテイクアウトの容器を一つに統一して、それを使った後、例えば市役所の場合は市役所の中に返却ボックスがありますので、そこにおいておけば引き取ってもらえるということで、ごみがでないような形でのテイクアウト用リユース食器の取組をしています。

市民の皆さんがごみを削減するというということで、「ゴミフェス」として楽しんで、フェスとして楽しんでいこうという取組を一緒にやっていただいています。

慶応義塾大学と連携して、プラスチックごみから様々なものを3Dプリンターで作ろうという取組です。ベンチだったり椅子だったり、そんなものが、まあ何でも作れますので、そんなことを市民の皆さんのアイデアをいただきながら、取り組んでいるものであります。

「しげんポスト」というものを、まち中の色々な所において、市民の方がポストの中に入れていくということで、「資源を未来に送っていく」といったコンセプトで行っているものです。

「WOTA」は自立分散型水循環システムということで、水がずっと使い続けられるという技術を持っておりますので、海水浴場の雑排水をきれいにしたりですとか、災害時にシャワーをこれで使いたいというようなことでやっています。

最後に「鎌倉スクールコラボファンド」というものなのですが、学校現場にはSDGsの教育をもっとやってほしいとか、プログラミング教育とか色々な課題が次々出てくるわけなのですが、学校の先生方には得意な人もいればそうじゃない先生もいるということで、新しい取組を全部等しく先生方にご負担があるということについては課題と思っています。そういう場合にはやはり民間企業としっかりと連携をして、その苦手な部分はどんどん民間にやってもらおうということで、企業から資金的には協力をしていただいて、そのお金で民間企業と連携をして、様々なプログラミング教育ですとか、3Dプリンターを使ったものですとか、そういうことをどんどんと学校の中の取組として進めているという形でのファンドをスタートしているものです。私からは以上です、ありがとうございました。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、逗子市の桐ヶ谷市長よろしく願いいたします。

#### 【逗子市長】

はい、私の方からは、我々のSDGsの取組をご紹介します。ブルーフラッグの認証は、もう既に、鎌倉市の由比ガ浜海水浴場が既に取得されておりますので、我々は日本では6か所目ですけれども、このブルーフラッグ認証取得をきっかけに、海を活用しました新しい活力あふれる取り組みを紹介します。

逗子の海はやはり一つには逗子海岸、また昔ながらの景色を残す小坪漁港、そのすぐ横にはマリナーという3つの顔を併せ持ったまちであります。

ブルーフラッグにつきましては、今年の4月に取得しました。これは逗子海水浴場そして小坪地区のマリナー。これはリビエラ逗子マリナーさんが取得したのですが、このマリナーでの取得、これはアジアでは初であります。聞きますと、船が帰港してから全部トイレを汲み取らなければいけないというのがルールだそうですが、大きい船はそういう貯蔵タンクがあるわけですが、小さな船は元々ないという中で、そこをクリアするのが大変だったというのをリビエラ逗子マリナーさんから聞いていま

す。いずれにしても、海水浴場とマリナーと一緒に取れたというところでありました。

ブルーフラッグは、本来は行政で取得というケースが多かろうと思うのですが、逗子市におきましては行政主導での取得は難しいということでございまして、海水浴の海岸営業協同組合が発意し、行政と協働で取り組んだというところであります。市の役割としては主に広報活動ですとか機運の醸成、また将来的な施設改善などを担うという分担をいたしました。

今、海的环境が大変厳しくなってきました。漁師も漁ができないくらいの状況でありますし、磯焼けなどによりまして、ものすごく環境が変わってまいりました。現在、ウニだらけですね。それからアカモクが海の厄介者としてこれを活用しようとして色々なレストランのメニューにしたところですが、現在アカモクが0、消滅しているというところでもあります。海をどうやって活かしているかということが課題と考えております。

そんな中で、海で活動している例を少し申し上げます。「そっか」という団体ですが、「黒門とびうおクラブ」これは海を活用して子ども育成をしようという活動をしているところではありますが、大変これが人気ありまして、東京ですとか遠くから、ここに入れてくれるなら逗子に移住したいというぐらい人気であります。ここが認可外の保育園も今経営しております、今逗子の海を活用した子育てを頑張っているところなんです。

こちらは東京大学と日本財団の協力によるものなのですが、海洋プラスチックごみ対策プロジェクト。海洋マイクロプラスチックに関する研究を東大が行う、それに地域の子どもたちを巻き込んで、そこでごみ収集しながら調査研究するということが進んでおります。

また、エバーブルーテクノロジーズ(株)という会社が、逗子海岸で「海のドローン」の実用化実験を行っております。これは無人で帆船型のドローンで自律操縦するのですが、風の力を利用して航行するというものであります。国交省のスマートアイランド推進実証調査業務というものに参画して、離島への物流サービス等の実験を行っているところです。今後逗子の海を使いながら、そういった今活躍できる場が生まれていくかもしれません。

活力が生まれるビーチへということで、今色々な実証実験をスタートしておりますけれども、まずはそういった新しい活力が生まれてきましたその次には、世の中の変化にも対応していく中で民と協力しながら新しいステージに挑戦しているというところでもあります。

こういったブルーフラッグまたカーボンニュートラルも、正に一連のものだと考えて、我々としてはSDGsの取組を進めているところでありまして、2020年に総合計画に改めてこの観点を盛り込んで、行政として取り組むというメッセージを発しております。今後は環境教育を学校と連携しながら、子供たちにそういう環境についての意識をしっかりと醸成していく、そういうための活動をしていきたいと思っております。以上で終わります。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、三浦市の吉田市長よろしくお願いたします。

#### 【三浦市長】

はい、SDGsがテーマでございますが、三浦市からは持続可能な地域に向けた新しい活力の生み出し方ということで、お話をさせていただきたいと思っております。まず、観光の核づくり事業、県の事業と一緒に連携させていただいております、城ヶ島西部地区のまちづくりについてでございます。今、三浦市の観光業はコロナの影響がございましてイベントが中止されたり、経済に大きな影響を受けております。こういった難局ではございますが、観光都市でございます三浦市として県と連携した城ヶ島・三崎地域の観光の核づくり事業に取り組んでおります。城ヶ島の西部地区のちょうど灯台のあるところですが、まちづくりを進めさせていただいております。市は国家戦略特区を活用した都市計画手続き

や市道の拡幅などの都市基盤整備、また京浜急行電鉄さんは城ヶ島観光ホテルをリニューアルして今度「ふふ」ブランドで現在準備させていただいています。運営会社とも調整を進めて、実際に4年度は予算をつけておりますので、順調に進んでいくという認識でございます。城ヶ島というのは半島の先端にございますし風光明媚な場所ということで、大きなポテンシャルを持っているということで進めさせていただいております。

次に、漁港内の二町谷地区における取組でございます。これは想像と写真なのですが、本当にこうなればすごいなというように思っています。いずれにしましてもスーパーヨットですとか海を活用した多目的活用、これは水産庁が現在「海業」という言葉を使っておりますけれども、海の生業として海際の活用、漁港の活用を県と一緒に取り組ませていただいています。こういったことが実現できれば非常に夢のある取組だというように思っておりますので、ぜひ実現に向けた取組を進めてまいりたいと思っております。

次に、市役所でございます、城山地区の事業用地の活用でございます。360度のロケーションを持ちます非常にいい場所として、市役所を移転し旧三崎中学校や市役所の跡地を民間主導によって整備しようということで現在進めさせていただいております。ちょうど三崎の漁港の真上にあたりますので、観光の拠点としての機能を一体的に進めていくということで今進めさせていただいております。

次に、三崎漁港のグランドデザインについてでございます。三崎漁港は県営漁港ですけれども、歴史ある港として現在でも水産業の大局的な拠点としての機能を有しています。ゾーニングしまして新たな高度衛生管理型の市場ですとか様々な施設、こういったことをFW、フィッシャーズ・ウォーフ ですね、観光の拠点としての機能を一体でゾーニングをして、これから漁港の整備活用を進めていこうということでございます。

最後に写真がございませうけれども、三崎の港が古い港町というイメージから、富裕層を対象とした拠点の整備ですとか、観光地としての高付加価値化を目指して新しい地域活力や地域活性化を進めていくというような取組を現在させていただいております。神奈川県とは出先の事務所をはじめ、様々な連携をさせていただいております。特に横須賀土木事務所や東部漁港事務所の皆さんには日ごろから密接に連携をさせていただいております。よろしくお願ひいたします、ありがとうございます。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、葉山町の山梨町長よろしくお願ひいたします。

#### 【葉山町長】

葉山町からはエシカルアクションについて皆さんにご紹介させていただきたいと思ひます。エシカルって何と真っ先に思われるのですけれども、フェアトレードとかそういったものを通じた消費活動をエシカルという、若い世代によく流通しているそうなので、若い世代は知っているのではないかという言葉です。

初めに、葉山町のご紹介なのですが、ごみは27の分別をしています。皆さんがごみを出すときに27に分けなきゃいけない町なので、かなり面倒くさいと思うのですけれども、おそらく県内でも1、2を争うくらい細かいのではないかと思います、やってみると結構慣れるという27分別。

資源化率は51%を超えました。県内2位です。今日いらっしゃっている皆さん、1位は鎌倉市さんが52%くらいでちょっと上にいまして、3位は逗子市さん、4位、5位が海老名市さん、二宮町さんがいて、三浦市さんと横須賀市さんが6位、7位と、三浦半島は非常に資源化、リサイクルに長けている地域というのが明らかにわかります。環境貢献、今日のSDGsの話題についても、すごくマッチした地域じゃないかというのがわかります。

葉山町はごみについては3つの品目を戸別収集していまして、資源ステーションというものを設置し

て資源回収をしておりますが、写真にあるようにビーチクリーンなども非常に盛んに行われている、いわば環境貢献に関しては意識が高い町の一つになってきたなというように感じております。

そんな環境について、ヨットの町でもありまして、一旦今年の春で終了したのですが、フォルクスワーゲンジャパンさんと協定を結びまして、今代わりましたけれど当時、ティル・シェアさんというフォルクスワーゲンの社長が来て、我が社の西海岸のイメージにぴったりだと、アメリカの会社ではなくドイツの会社なのになんでかなと思ったのですが、西海岸のイメージにぴったりと言われました。

また、セイラズフォーザシーさんというNGOをやっている方なのですけれども、あの石油で有名なアメリカのデイビッド・ロックフェラーさんが、彼はヨットでよく葉山にいらっしやっていて、話が盛り上がり、協定を結びました。世界との環境に関する貢献活動をしようということを今、町の方針として続けて活動しているところでございます。

活動をピックアップしてきましたけれども、三井住友海上さんとかカシオ計算機さんとか、先ほどの鎌倉市の松尾さんの紹介でもありましたウォータースタンドさんとか、県の方にもだいぶ紹介していただいています。TBMさんとか、明治安田生命さんと、先ほどご紹介しましたecoinnno(エコイノ)さんもこうした協定に加わり、これから様々な協力関係を作っていこうと考えています。この町の活動については、これまでもごみの分別に力を入れていただきましたので、町民の方々にこれから環境貢献へどんどん力を入れていきますよということを、「はやまクリーンプログラム」という名前で2019年に宣言を行いまして、様々な取組をこれまでも町としても進めてきました。

公共施設ではペットボトルの販売を一切禁止にしたりとか、職員さんを中心にレジ袋とかペットボトルの持ち込みが禁止になっているので、私も含めて職員さんがペットボトルを持ってくると、コソコソ隠す雰囲気になりまして、ペットボトルが恥ずかしいものと町役場の職員さんが思ってくださいっております。

また、町の中で色々イベントがありますと、イベントに後援などをするのですが、そういった活動をちゃんとできていますか、ということをやちゃんとチェックして、できていないと後援はしませんよと、少し強気に発信をしております。そして、この写真は何かというと、トイレの用を足すときに我々男性はじっと壁を見ながら立って用を足すのですが、この先に環境のチラシを貼ったりとかですね、コソコソとボディブローのように環境貢献のメッセージを発信しております。

そして、今年「はやまクリーンプログラム」の第3弾としていよいよエシカルアクションを開始いたしました。何をやるのかはこの次にご紹介しますが、先に町民の方々と事業者の方々に、地球の将来のために、葉山の全員、人口33,000人の町、商工会登録事業者が約950~960いますので、1,000の団体の全員が本気で行動する町になろうと目標に掲げまして、世界に向けて発信していこうと今年の春から活動開始しています。この活動に賛同すると何をもらえるかということ、葉山は三浦半島の皆様ご存知の、LGBTQの方々もパートナーの証明ができるように共通のパートナーシップ証明書を発行しています。そのパートナーの方々や婚姻届を町に出される方に、このくじらのデザインをした婚姻届やパートナーシップ証明を出していただいて、代わりに下のメモリアルカードやポストカードをお渡ししています。そのカードに環境貢献に約束しますと記述をしてもらって、各ご家庭に結婚記念、パートナー記念にこんなカードが家にあるよという町にしていけたらいいなと思っています。ご存知の方も一部いるかと思いますが、先ほどカシオ計算機の協定をお話しましたが、Gショックに昔「イルカ・クジラモデル」というのがありまして、僕の年代では大ヒットし「イルクジ、イルクジ」といってみんな2万3万とお金を出して買うんだというようなブームがあったのですけれども、そのデザインをした、あらたひとむさんという方にポストカードをデザインしていただいております。あらたさんはホエールアーティストの第一人者という方です。具体的に何をすればもらえるのかと、町民の方々に難しいことは要求しておりません。ごみの分別しっかりしましょう、先ほどお話したとおりペットボトルではなくてなるべく自分のマイボトルを持ってとか、色々な項目にチェックを入れていただいて、環境貢献の約束をし

ていただくことを促しております。

目玉となるのは事業者側の皆様に、先に言ってしまいますと環境貢献していないところからはモノは買わないという町にしていこうというのが実はあります。町のホームページで町の皆様を紹介するページを作っております。これは参考に日の出園さんというお茶屋さんのページですが、こういう風に日の出園さんのご紹介をして、オリジナルのものを使っています、エシカルなこんな活動をしていますというのを、町のホームページでお店を紹介しています。実はよくどんなところで買えばいいのか、お店屋さんがどんな貢献をしているか分からないという問合せが町にかなり寄せられていたので、そういう方々に町のホームページに登録してあるお店屋さんをぜひ使ってくださいということを、当たり前にしていこうと思っております。町に関わる全ての事業者さんが町で紹介できるようなエコ活動をしているような町であるという風に、我々は強気で発信していきたいなど。登録していないところでは買わないでくださいねというようなことは言いませんけれども、我々はそういう暗にメッセージを発信してもいい時代なんじゃないかというように考え動き始めています。

今後についてですが、今年はずはオンライン上でエシカルアクションのPRコンクールをしてみまして、その発表を1月に行い、その後シンポジウムを開催、そしてこういった登録を1,000の全ての事業者にもやってもらうことを今年度の大きな目標にしております。

最後になります。お手元のペーパーに、なぜか英語なのですけれど、「ミウラ・ペニンシュラ・イズ何とか……」と、英語なので実はよくわからないのですけれども、「三浦半島はすごいな。」ということが書いてありますので、みんなで頑張ろうと最後に言いたかったところでございます。私からは以上です。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それでは、ここからはいただきましたテーマについて、自由な意見交換とさせていただきます。皆様から自由にご発言いただければと思います。

#### 【三浦市長】

何点かあります。先ほど各市町の要望事項の中で、1点目、気になったのが、小児医療費の件で、横須賀市さんが挙げてくれましたが、これは県内全市町村の課題なのですね。その助成制度については、市町村単位で政策の競争になっている。例えば選挙の際に小児医療費の助成を何歳まで引き上げますという公約を出しますと非常に受けがいいです。これは長年の課題で、国に要望することはもちろん当たり前の話で、子供に対する支援をどうするかがこれから大きなテーマになると思うのですが、神奈川県も現在、補助をしてくれていて助かっています。ですが、県内のほとんどの市町村が中学3年生までの補助です。それを年齢の引き上げの考えがないなんてはっきり言わないほうがいいですよ。県としても年齢引き上げに努力しますと言わないと。県としても、小児医療費の支援に力を入れていると。政策局は財政も担当ですか、総務局ですか。前向きに回答したほうがいいですよ。市町村を敵に回してしまいます。そこは配慮していただきたいと思います。

以前から疑問に思っていたのが、逗子市と葉山町で三浦半島中央道の話はずっとやってきたじゃないですか。反対の方がいたり、沢山の課題がありますよね。そうしたなか、桜山まで通すのはいいのですが、そこから先はどうなるのか、そこは誰も関心持っていないのかなと感じています。例えば、池子へ抜ける、横浜横須賀道路に抜けるという計画があればいいのだけれど、その点を大島県土整備局長に伺いたいです。それが2点目です。

最後は「海岸の活用」で、逗子市さんも今回テーマにしてくれましたけれど、実は、三浦海岸は海の家をやる事業者がいなくて、今年、海水浴場を開設できませんでした。県土整備局の方ですぐに配慮してくれて、開設をしない海岸もきちんとライフセーバーをおいたりパトロールをしたり、県市で連携さ

せてもらって、先般には、黒岩知事にもドローンの警備体制等の視察をいただいたのです。その場でライフセービング協会の人たちから、テントを張って対応してくれているのですが、休憩する場所がないって言われたのです。すぐにコンテナハウスを手配して、海岸には建てられなかったのですが、駐車場にすぐに建てることになりました。その時にも、普通は許認可に時間がかかるのですが、横須賀土木事務所が、法令の中で早急に手続きをしてくれて1週間で置くことができました。そういった大きな課題に対し、即応的な対応をこれからもぜひお願いしたいということと、海岸の利用が大きなテーマになると思うのです。今鎌倉や逗子、葉山には海の家がありますが、三浦に海の家事業者がいなくて本当に困っています。あれだけの砂浜があるところを、いかに活用していくかが大きなテーマですので、ぜひ一緒にご検討いただきたいと思います。以上3点です。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

ありがとうございました。

平田局長。

**【政策局長】**

私は担当局長ではなく直接権限がございませんので、今日頂いたお話を、本当に皆さん共通のご要望ということで伺いましたので、責任をもって、福祉子どもみらい局と総務局の方にはお伝えさせていただきます。

**【県土整備局長】**

2点ございました。三浦半島中央道を貫いた後の北側路線のお話です。実はその先のルートを横浜側に振るのか国道134号に振るのか、まだ決めかねています。例えば、その先には米軍キャンプもございますので、簡単ではなく、現状は何も決まっていません。今後、今の中央道の新しい区間を進めていく中で、様々なご意見を伺いながら検討していきたいと思えます。

それからコンテナハウスについてはありがとうございました。三浦市長さんがすぐにやっていただけるということで、許認可の方は、こちらとしても柔軟に対応させていただきました。ただ来年、もし海の家がない状態が続いた場合には同じような課題が生じると思えますので、ドローンの置き場など、恒久的な対応の必要があると考えています。国道134号の陸側には、昔使っていた施設がありますので、活用可能かどうかの検討を始めています。来年度以降、もし海の家がない場合、ライフセーバーの方々の資機材の置き場については、三浦市さんと調整させて頂きながら、考えていきたいです。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

他にご発言がありましたら、お願いいたします。

海水浴場の視察は私も行かせていただいたのですけれども、昔はすごくにぎわっていた時期もありますけれども、どうして事業者の方々が出なくなったのか、そこら辺の分析はされているのでしょうか。

**【三浦市長】**

三浦海岸周辺の土地は道路公社が持っているのですけれども、駐車場をしっかりと整備していただいています。海岸沿いにコンビニが3軒くらいあります。駅から歩いて一番近い海水浴場という触れ込みでしたが、最近では、回遊もないですから。海の家がなければ機能しないですから。私は逗子や鎌倉や葉山が羨ましくてしょうがないです。

**【知事】**

先日、ドローンの視察（で三浦海岸海水浴場）に行ったのですが、私は前々から思っていて、日本の海水浴場というのは、海の家というものがシーズンだけ作られて、終わったら片づけられるという、これが当たり前のようになっています。一方、ハワイのワイキキビーチをみたら、海岸沿いには年中ホテルがあるわけです。そこから海にも入っていきます。そういう恒久的な施設といいますか、それがホテルであれば一番いいと思いますが、作ったり壊したりというのはなんとかならないのでしょうか。海岸に常設は作ってはいけないという、なにか決まりがあるのですか。

**【県土整備局長】**

海岸に作ってはいけないといいますか、まずは津波、波浪をかぶったり、という恐れがありますので、そこに耐えるような構造が求められます。あとは、どういった使い勝手をするのかということも、みなくてはいけなくて、それはやはり公的に使うという視点が必要となります。市町村から要望をいただいて、公的に一般の方の福祉増進に寄与するようなことであれば、原則認められます。

**【知事】**

公的なものであれば作れるのですか。

**【県土整備局長】**

公的なもので、海岸利用増進に寄与するという立証ができれば、そういったものについては立地可能です。

**【知事】**

県営ホテルであればよいのですか。

**【県土整備局長】**

県がみずから県民のために作るのであれば、建つかと存じます。

**【知事】**

以前（三浦市長が）「作れないわけじゃないですよ」とおっしゃったから、では作りましょう、と思いました。

**【三浦市長】**

しかし、1年のうち、2カ月なのですよ。

**【知事】**

いわゆる「海水浴」というのはそうかもしれませんが、ウインドサーフィンなど、いろいろなことができます。そこで海のアクティビティというものを年中楽しめるようにしていくことは十分あり得ます。

**【三浦市長】**

今回、海水浴場を開催できなかったことによって、そういった使い方を含め、県土整備局や横須賀土木事務所と考えていきたいと思っています。

**【知事】**

いいじゃないですか。それこそ、三浦半島はME-BYO半島宣言をやってもらいましたから。海水に入る、海水浴というのは、もともとは健康のためといったところがあったわけですね。泳ぐだけではなくて、温泉のように海に浸かるということの付加価値を付けてやっていくことは十分あり得ますね。公共的なものというのであれば、健康増進のための海のME-BYOセンターでもいいですね。

**【県土整備局長】**

三浦市のお考えも伺いながら、知恵を絞って考えたいと思います。

**【三浦市長】**

色々考えたいと思います。

**【知事】**

それから、小児医療費の問題というのも、先日、本気で議論しました。「検討していません」ではなくて、結論が出ていないので言えませんが、検討していることは間違いないです。重大な問題として受け止めています。ただ単に「国がやればいい」と言っているわけではありません。それだけは言うておきます。

**【横須賀市副市長】**

しっかり報告しておきます。ありがとうございます。来た甲斐がありました。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

ありがとうございます。先ほど逗子市長から、それぞれの家庭でどれくらいCO2が排出されているか見せていくというお話をされていたときに、さきほど山梨町長からご発言ありましたけれども、私も先ほどトイレに入った時に、紙が貼ってあるのを読みました。

衣類を大切に使いましょうという趣旨の紙で、一枚の衣類を作るのに、CO2がペットボトル500ミリリットルで約250本出ます、と書いてありました。非常にわかりやすいと思いました。そして、その横に「長く大切に衣類を着ましょう」、「お下がりを検討しましょう」という言葉が書かれていて、すごくわかりやすいし、自分事化するのに、こういう伝え方はとても大切だと思いました。すごく勉強になりました、ありがとうございます。

**【知事】**

ちょうどいま政策レビューをやっているところで、今日ここへ来る直前にやっていた議論です。脱炭素化をどのように進めていくかという中で、自分事化することが大事という話をしていました。その視点でどういうことがあるのかというときに、とても良い切り口を教えていただいたと思いました。参考にさせていただきます。

**【逗子市長】**

逗子でも、そういう話を先週聞かせてもらいまして、自分事になれば「どうしよう、こうしよう。」というところに行くと思います。逗子は工場も大企業もないものですから、家庭でそれぞれが目標をもってやってもらうということが大事だと思っています。

先ほど言ったイベントの時に、手回しで電気を起こすと、LEDはすぐ点くのですが、白熱電球はなかなか点かないです。それだけエネルギーが必要です。

私は建築をやっているんですけど、LEDは嫌だと言っていました。弊社（株式会社キリガヤ）モデルハウスにハロゲンとLEDと白熱灯と蛍光灯を並べて、下にリンゴとレモンとイチゴの同じものを並べておいて、電気を点けると、一番色がきれいなのはハロゲンです。だからデパートのショウウィンドウは全部ハロゲンで照らすわけです。当時のLEDは昼白色ですから全然色気もない、見るからに不味いというくらいです。同じ機材を置いておいて、美味しくみえる、不味くみえるのです。白熱灯、つまり普通の電球色はやはり温かみがあって美味しそうなのです。だから台所の電球は白熱電球にしていたのですが、電気を手回ししてみたら、LEDにしなければいけないと思いました。いま、LEDも非常によくなってきて、自然色に近いLEDがありました。早速買ってきて替えました。なんの遜色もありません、早くに替えるべきだったなと思いました。昔の、出たての頃のLEDのことを言っていたと反省しております。そういうところから変えていくのも、家庭でやれる取組ということかもしれません。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

ありがとうございます。他にみなさまから何かありますか。

**【理事】**

この4月からSDGsを担当させていただいております、脇と申します。よろしくお願ひいたします。さきほどありましたけれども、やはり自分事化というのがキーワードだと思っておりまして、今日私もここにきて、お恥ずかしながら、みなさんの取組で知らない部分が非常に多くありました。こうした自分事化についての各市町の取組、ノウハウをみなさんと共有する場を改めて作るべきだと思っています。9月か10月になりますけれども、市町村担当者会議を開かせていただき、そこで今日のお話などのノウハウを共有することから始めていくべきと思った次第であります。ご協力どうぞよろしくお願ひいたします。

**【知事】**

本当に、色々聞かせていただいて、すごいな、色々なものがあるなと思いました。その中でわからないのがあったのですが、「そっか」って何ですか。

**【逗子市長】**

子どもたちと海遊びをずっとやっているグループがいて、海岸をベースに活動していました。海遊びをやっているうちに放課後の活動や認可外保育所を開設したというそんな感じですか。「そっか」の元は足元を見つめようという意味ですが、ここは、本当に子供たちがワイルドに海遊び山遊びをやっているんですね。その延長線上で、逗子から見えているあの富士山に登ろうと、カヌーで小田原まで行って、小田原から箱根を超えて途中で何泊かしながら富士山めざしていく。そんな活動をしながら、逗子の自然を生かして子育てしようというグループがいます。

**【知事】**

前に見学に行った所で海遊びをやっていた、この前亡くなったタレントの方がいましたけれど、その方の活動ですか。

**【逗子市長】**

その方ではないです。

子育てのグループの中から子育てをやりながら、自然発生的に海山で活動しています。それを見て、東京にいる親御さんが、入れてくれるなら逗子に移住したいというくらい、自然遊びを子育ての中心に

しているところです。

**【知事】**

それはクラブみたいなものですか。

**【逗子市長】**

はい、そうです。

## 6 知事総括

ありがとうございました。

本当にさすが三浦半島だなという感じがすごくしましたね。SDGsに対しても本当に様々な独自の取組をされているということですね。

今日はたくさん話題がありましたので、話には出ませんでした。鎌倉で海藻ポークというのも、正にSDGsですね。障がい者の方々が海藻を海岸で拾って、高齢者の方々がきれいに洗って干して、そしてそれを切り刻んで、豚の餌にして、ヘルシーな豚肉ができて、それを食べられるレストランができて、ふるさと納税の返礼品にしているというように、きれいに循環しています。そうしたら障がい者福祉にもつながっているし、環境にもつながっているし、高齢者問題にもつながっているし、色々なものをつなげていく、正にSDGsのすごい取組だなと思いました。本当に色々心強く思いました。

三浦半島、私は知事になって11年半ですが、やはり当時に比べたら、ものすごく今ががん、三浦半島は光り輝き続けていると思います。

先ほど紹介があった、城ヶ島・三崎地域が第4の観光の核づくりに選ばれたところから始まって、懸案の商店街もようやく姿を変えようとし始めているのかなというのがありますね。先端にあるホテルも、あんな素晴らしい位置にあるのに、何でボロボロなんだろうというホテルも遂に建替えが決まり、先ほどの二町谷も大きな課題だったなと思いつつながら、先ほど絵を見たら夢のような場所になるようなという形になって、それぞれの地域がそれぞれ輝いているということがありました。

三浦市からの話題でしたが、道路は非常に大きな課題だと思っています。私は当時からマグネットとっていますが、とにかく開発などの要求は、道路の要求から始まるんですね。道路さえつながれば人が来るといいますが、それは違うでしょうと、来なくなる場所でない道路がつながったって、地元の人が出ていくだけじゃないですか、といていたのです。

まずは、来なくなる場所であること、そして、マグネットの力を持つ、光り輝くマグネットが出来てきたら、行きたいとなったら、もっと便利な道を作るという、そういう話をしてきました。正にそれぞれの地域が活性化してきているのは肌で感じていますので、今度はやっぱり道路を作るというのは、我々の責任ですから、道路を作る、やるような状況になってきているのかなと思います。

つい先日、お休みの中にも拘わらず、みなさんに声をかけさせていただいて、三浦半島はイタリア半島プロジェクトということでお話をさせていただいて、ある種の盛り上がりを感じましたよね。あの時きてくれた、私の中学からの同級生の友人は今イタリアに戻っていますけれども、あの後も気にしてくれて、様々なアイデアを度々メールで送っています。

イタリア半島プロジェクトというのが、とても美しいシナリオだと思っています。アイデアは長谷川りえさんという横須賀お住まいの料理研究家の方が、地元の商工会議所に持っていったところ、面白いねということではじまって、みんなを巻き込んでいったという、美しいシナリオだと思っています。このように民間から出てきたアイデアを育てていくということを見せるということ自体が、じゃあ私も何か考えてみようかなというように、みんなが参加するような流れをつくるために、とても大事なことだなと私は思っています。

では、具体的にどのように展開してつないでいくかということ、我々は真剣に考えていきたいと思っています。長谷川りえさんは元々料理の研究家ということですから、イタリア料理をやっていくという発想でしたが、料理を離れてもイタリア半島に似ているという、ただそれだけのことであったとしても、ひとつの面白いきっかけになると思います。これからイタリアとどのようにつなげていくか、イタリア大使館なども巻き込んでみたいなと思っていますし、どこかイタリアの市と町と、連携みたいな、提携を結んで姉妹都市になっていくとか、交流をどんどん進めていき、それをベースにしてまた何か活性化していくという流れをつくっていくのも、面白いかなと思っています。

ゴールドコーストも神奈川の海のいくつかの市町と一緒に連携していくというのがありますが、イタリア半島というのでも大きな可能性があるなと思っています。言いつばなしではなく、本当にやっていきたい大きなプロジェクトにしていきたいと思っています。ということで、今日の議論は非常に有意義であったと思います。本当にありがとうございました。

## 7 閉会

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

それでは、以上をもちまして、令和4年度横須賀三浦地域首長懇談会を閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中、長時間にわたり誠にありがとうございました。

—以上—